

Br. Holdings Report



第11期 年次報告書

平成24年4月1日～平成25年3月31日



株式会社 ビーアールホールディングス

証券コード:1726

「人と人」「技術と技術」の橋渡し

ビーアールホールディングスグループは、
異なる事業特性・成長ステージを擁するグループ企業で構成された企業群を目指します。
そのグループ全体をまとめ、企業価値の最大化に努め、
資本効率のさらなる向上を目指すのが、
ホールディング・カンパニーとしての当社の役割です。
欧州統一通貨ユーロ紙幣の裏面は、全てのコミュニケーションを象徴する
橋のイメージのデザインで統一されています。
株式会社ビーアールホールディングスの経営理念も同じです。
これからも「人と人」「技術と技術」の橋渡しをすることに取り組んでまいります。





代表取締役社長 藤田公康

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社の第11期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)が終了しましたので、当社グループの業績及び事業活動をご報告させていただきます。

当社グループの第11期の業績は、当期期首の手持工事は13,515百万円に止まりましたが、粗利率、粗利額とも改善しており、前々年度の厳しさは無くなりました。当期の主要子会社2社の受注高は17,582百万円と対前年度比10.6%の増加となりました。当事業年度は東日本大震災の復旧・復興工事が本格化し、大手建設会社はその地域に経営資源を重点的に配分したため、プレストレス建設業協会の大手建設会社のPC受注額シェアは低下し、相対的に専業会員各社のPC受注額が大幅に増加いたしました。当社グループの子会社は、極東興和(株)は補修事業が前年比2.4倍と大幅に増加し、東日本コンクリート(株)は大規模な復興工事を2件受注しましたが、PC受注額に含まれない部分も多く、そのシェアは0.33%程低下する結果となりました。

当社グループは、復旧・復興事業や、橋梁の長寿命化修繕計画に真摯に取り組み、受注高は19,128百万円(前年度受注高17,910百万円)と6.8%の増加となりました。その結果第11期

の売上高は19,182百万円(前年度売上高16,650百万円)と15.2%増加し、営業利益は547百万円(前年度営業利益266百万円)とほぼ倍増し、経常利益は351百万円(前年度経常利益119百万円)とほぼ3倍となりました。当期純利益は、特別損失230百万円を計上したため、269百万円(前年度純利益156百万円)と71.7%の増加となりましたが、1株当たり株主配当は期末4円(年間8円)で継続させていただきました。

平成25年5月に、極東興和(株)は国土交通省、東日本コンクリート(株)は福島県より損害賠償の請求を受け、いずれも特別損失として処理し、払込みを完了しております。元本の連帯責任部分等、不明瞭な部分もございますが、これにより平成13年より継続しておりました「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」第3条に違反する3件の事件は、公正取引委員会による審決から、課徴金および違約金の納付、各発注機関からの営業停止や指名停止を経て、今回の納付によりほぼ終了しましたことを報告申し上げます。また、当社グループはコンプライアンスの一層の浸透に努力し、信用の維持に全力で取り組んでまいりますので、今後とも株主様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月

プロフィール

(株)ビーアールホールディングス
代表取締役社長 藤田 公康
(昭和25年9月9日生)

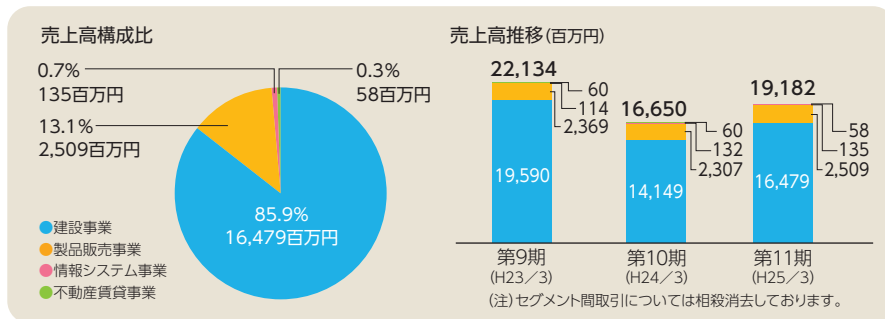
- 昭和49年 慶応義塾大学法学部
政治学科卒業
- 昭和51年 ハートフォード大学
経営学部修士課程
卒業(MBA)
- 昭和51年 大塚製薬(株)入社
企画課長
- 昭和56年 極東工業(株)(現極東
興和(株))入社
取締役社長室長
- 昭和60年 同社代表取締役社長
- 平成5年 同社代表取締役会長
- 平成14年 当社取締役
- 平成17年 当社代表取締役社長
(現任)

<兼職>

- 昭和63年 (株)広島青年会議所
理事長
- 平成2年 (株)日本青年会議所
会頭

各事業区分の主要な内容

- 1 **建設事業**
橋梁土木工事の設計・施工
- 2 **製品販売事業**
コンクリート二次製品の販売
- 3 **情報システム事業**
システム開発・販売
- 4 **不動産賃貸事業**
当社ビルのマンション賃貸運営等



建設事業



売上高 **164億79**百万円
前年同期比 **16.5%**増

建設事業におきましては、公共事業の削減による受注競争激化等、引き続き厳しい経営環境が続いております。当連結会計年度の受注高は160億89百万円(前年同期比12.0%増)、売上高は164億79百万円(前年同期比16.5%増)、セグメント利益は9億38百万円(前年同期比39.5%増)となりました。

製品販売事業



売上高 **26億67**百万円
前年同期比 **4.1%**減

製品販売事業におきましては、その対象は建設業界であり、依然厳しい状況が続いております。当連結会計年度の受注高は25億92百万円(前年同期比17.0%減)、売上高は26億67百万円(前年同期比4.1%減)、セグメント利益は2億18百万円(前年同期比5.3%減)となりました。

情報システム事業



売上高 **2億36**百万円
前年同期比 **5.5%**増

情報システム事業の主な事業内容であるシステム開発および販売では、緊急経済対策に伴い製造業の業績が改善見込みになりつつも、依然としてIT投資抑制の影響はあり、厳しい状況が続いております。当連結会計年度の売上高は2億36百万円(前年同期比5.5%増)、セグメント利益は18百万円(前年同期比20.9%増)となりました。

不動産賃貸事業



売上高 **1億99**百万円
前年同期比 **1.8%**減

不動産賃貸事業におきましては、当社保有の極東ビルディングにおいて、事務所賃貸ならびに一般店舗・住宅の賃貸管理のほか、グループ会社の拠点として、当社が一括して賃借した事務所を各グループ会社に賃貸しており、安定した売上高を計上しております。当連結会計年度の売上高は1億99百万円(前年同期比1.8%減)、セグメント利益は1億33百万円(前年同期比0.4%増)となりました。

Topics 1. 広島南道路西部工区上部工事(その1)〈極東興和株式会社〉

広島都市圏のさらなる発展を目的として整備される広島南道路は、安芸郡海田町～廿日市間の広島湾沿いを走る、延長およそ23.3kmの道路です。この道路は、一般道と自動車専用道で構成され、無料区間と有料区間に区別されます。

本橋は、広島市西区商工センターの自動車専用道無料区間に位置する、3径間連続箱桁橋2連と2径間連続箱桁橋1連の計3連と橋台の工事で、意匠をこらした断面形状であるうえ、狭い施工ヤード、短い工期等、数々の難題を克服し、平成25年3月に完成しました。この難工事を無事故・無災害で完成させたことから、発注者である広島市から高い評価を頂きました。



Topics 2. 亀山橋〈極東興和株式会社〉

亀山橋は、大分県日田市中心街の温泉街に隣接して南北に通過する街路の一部、幅員20mのPC2径間連結T桁橋で、本橋のセグメント桁20本は、当社大分工場で作りました。

現場周辺は大分県内有数の観光地域であるうえ、住宅・店舗・公園に近接していることから、4重の騒音振動防止対策を施し、周辺住民および観光客への配慮を最優先しました。また、主桁接合および架設では、国内でも使用実績の少ないロングスパン門構(21m)と225t吊りクレーンを併用した結果、1日2本の主桁接合架設が可能になり、工期を約2ヵ月短縮できました。

さらに、地域への貢献として、土木工事を身近に感じてもらうと周辺地域の子供と住民を対象に、桁架設見学会と橋面をキャンパスとした落書き大会を開催し、3つの周辺町内と保育園・小学校から感謝状を頂くとともに、発注者からも地域貢献を高く評価されました。



Topics 3. 西城川橋〈東日本コンクリート株式会社〉

山陰と山陽をつなぐ中国横断自動車道尾道松江線は、平成25年度に約50kmが開通。松江市と広島市の所要時間が約50分短縮し、利便性が大幅に向上しました。西城川橋は、この開通路線に架橋された橋長約300mのPC4径間連続ラーメン箱桁橋です。

本橋は広島県庄原市に架橋されたことから、冬期の積雪や凍結に伴う厳しい気象条件下での施工となりました。工期厳守を目的として、橋桁と橋脚の結合個所である脚頭部・柱頭部は冬期施工、橋脚間の張出施工部は春から秋にかけて、3箇所同時に施工しました。

橋脚2箇所は市道上での施工となるため第三者災害の防止に細心の注意を払い、残る橋脚は河川上であったため水質汚濁防止に留意しました。沿線住民からの早期開通の期待や、発注者からの工期短縮要請を担い、この大型工事を無事故・無災害で完成しました。

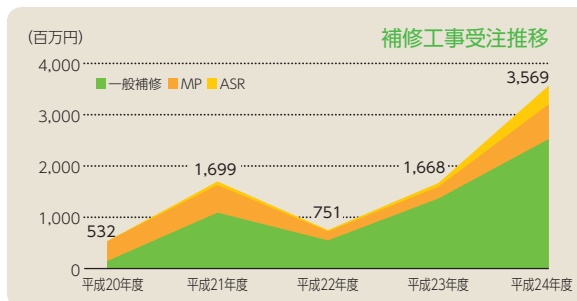


CSR 補修事業への取り組み

当社グループの主力事業である橋梁新設市場は、東日本大震災の復興需要や現政権の公共投資拡大方針などにより、短期的には堅調に推移すると見込まれるものの、長期的には大きな成長は期待できません。一方、高度経済成長期に構築された構造物が順次更新時期を迎えるうえ、これまで構造物を適切に維持管理してこなかったことが原因でコンクリートが崩落するなど、大規模な事故が発生しています。これらは社会問題化しており、構造物の補修・補強分野は中長期的に大きな成長が見込まれています。

このような国内情勢のなか、当社グループの補修・補強事業は、直近5ヵ年で受注が6.7倍と大幅に伸長し、全受注高における割合も20%を超え、今後の事業戦略の柱となる分野に成長しています(右図参照)。なかでも、独自性の高い亜硝酸リチウム内部圧入(ASR)工法とマイクロパイル(MP)工法は、直近2年間で飛躍的に事業量を伸ばしました。亜硝酸リチウム内部圧入工法は、これまで抜本的な解決が困難とされてきたコンクリートのアルカリ骨材反応による損傷を恒久的に抑制できる唯一の工法として認知されています。また、マイクロパイル工法は、既設基礎の耐震補強工法として、橋梁の桁下や既設構造物に近接した場所など厳しい施工環

境に対応するために開発された杭基礎工法です。これらの工法は、新政権が推進する国土強靱化計画に適合した将来性のある工法です。当社は、国内におけるトップシェアを誇るリーディングカンパニーとして全国各地でセミナーや見学会を開催し、市場拡大のけん引役としての役割を担っています。



浜名大橋主桁補強工事<極東興和株式会社>

国道1号浜名バイパスの一部を形成し、東海道新幹線からもその景観を楽しむことができる浜名大橋(静岡県浜松市)は、中央径間240mを誇る国内最大規模の5径間連続PC箱桁橋です。雄大な景観を誇る浜名大橋も、完成から35年が経過したことから耐震性能の向上および走行性の改善が必要となり、炭素繊維シートによるせん断補強、中央ヒンジ部の連結など、大規模修繕を実施しました。



首都高速道路 上部工補強工事(飯田橋工区)<極東興和株式会社>

本工事は、東京都千代田区飯田橋において、外堀通りおよび神田川上空に位置する首都高速道路高架橋を補強する工事です。国内最大級の交通量を誇る外堀通りを交通規制し、安全確保に最大の注意を払いながら、鋭意施工しています。



連結貸借対照表のポイント

(単位:千円)

	当期末	前期末
	平成25年3月31日現在	平成24年3月31日現在
流動資産	9,288,671	7,975,942
固定資産	4,365,206	4,332,051
有形固定資産	3,600,566	3,642,172
無形固定資産	73,721	82,860
投資その他の資産	690,918	607,017
資産合計	13,653,877	12,307,993
流動負債	10,394,734	10,289,592
固定負債	1,930,055	929,835
負債合計	12,324,789	11,219,427
純資産	1,329,088	1,088,565
負債・純資産合計	13,653,877	12,307,993



Point

連結貸借対照表

総資産は136億53百万円となり、前年度末比13億45百万円の増加となりました。その主な要因は、受取手形・完成工事未収入金等が増加したことによるものであります。有利子負債は9億93百万円増加し、55億30百万円となりました。純資産は、当期純利益2億69百万円の計上等により、前年度末比2億40百万円増加の13億29百万円となりました。

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書のポイント

(単位:千円)

	当 期	前 期
	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	平成23年4月1日～ 平成24年3月31日
売上高	19,182,899	16,650,135
売上原価	16,975,532	14,688,691
売上総利益	2,207,367	1,961,444
販売費及び一般管理費	1,659,754	1,694,891
営業利益	547,613	266,552
経常利益	351,311	119,991
当期純利益	269,330	156,875

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。



Point

連結損益計算書

売上高は191億82百万円(前年同期比15.2%増)、営業利益は5億47百万円(前年同期比105.4%増)、経常利益は3億51百万円(前年同期比192.8%増)、当期純利益は2億69百万円(前年同期比71.7%増)となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

(単位:千円)

	当 期	前 期
	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	平成23年4月1日～ 平成24年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△191,417	685,720
投資活動によるキャッシュ・フロー	△173,858	△144,692
財務活動によるキャッシュ・フロー	924,364	△662,104
現金及び現金同等物に係る換算差額	109	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	559,197	△121,076
現金及び現金同等物の期首残高	1,229,451	1,350,528
連結の範囲の変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	759	—
現金及び現金同等物の期末残高	1,789,408	1,229,451

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。



Point

連結キャッシュ・フロー計算書

現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ5億59百万円増加し、17億89百万円となりました。「営業活動によるキャッシュ・フロー」は1億91百万円の使用(前年同期は6億85百万円の獲得)、「投資活動によるキャッシュ・フロー」は1億73百万円の使用(前年同期は1億44百万円の使用)、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は9億24百万円の獲得(前年同期は6億62百万円の使用)となりました。

会社概要

(平成25年3月31日現在)

商号	株式会社 ビーアールホールディングス Br.Holdings Corporation
設立	平成14年9月27日
本社所在地	広島市東区光町二丁目6番31号
電話番号	082-261-2860(代表)
資本金	25億円
決算期	3月31日
従業員数	8名

代表者及び役員

(平成25年6月26日現在)

代表取締役社長	藤田 公康
取締役	長谷部 正和
取締役	土屋 英治
取締役	大田 光英
取締役	多賀 邦行
常勤監査役	天野 敏彦
監査役	小田 清和
監査役	佐上 芳春

グループの概況

(平成25年3月31日現在)

極東興和株式会社

本社所在地/広島市

事業内容/PC建造物の設計・施工、
PC及びPC製品の設計・
製造・販売等

東日本コンクリート株式会社

本社所在地/仙台市

事業内容/プレストレスト・コンクリート
建造物の企画・設計・施工・
管理等、PC建造物の設計・
施工

豊工業株式会社

本社所在地/大分市

事業内容/プレストレスト・コンクリート
及びコンクリート二次製品の
設計・製造・販売等

キョウトウ高宮株式会社

本社所在地/広島市

事業内容/プレストレスト・コンクリート
製品及びコンクリート二次製
品の製造・販売・施工等

ケイ・エヌ情報システム株式会社

本社所在地/広島市

事業内容/ソフトウェアの設計開発及び
販売等

株式会社

ビーアールインターナショナル

本社所在地/東京都北区

事業内容/ベトナム及び海外企業への出資



株式の状況

(平成25年3月31日現在)

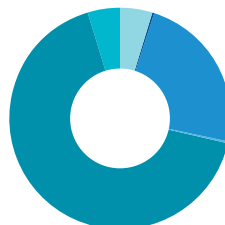
発行可能株式総数…………… 30,000,000株
 発行済株式の総数…………… 8,620,000株
 株主数…………… 1,026名

大株主(上位11名)

株主名	持株数	持株比率
トウショウ産業株式会社	1,300 (千株)	15.82 (%)
藤田 公 康	727	8.86
ピーアールグループ社員持株会	463	5.64
極東工業大阪支部取引先持株会	264	3.21
極東工業広島支部取引先持株会	248	3.02
広成建設株式会社	247	3.01
株式会社三菱東京UFJ銀行	200	2.43
長 谷 部 正 和	191	2.33
藤 田 衛 成	186	2.26
遠 藤 祐 子	185	2.25
藤 田 雄 山	185	2.25

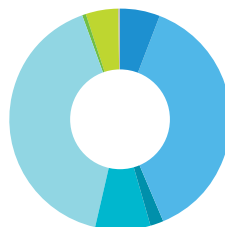
(注)持株比率は自己株式(405千株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



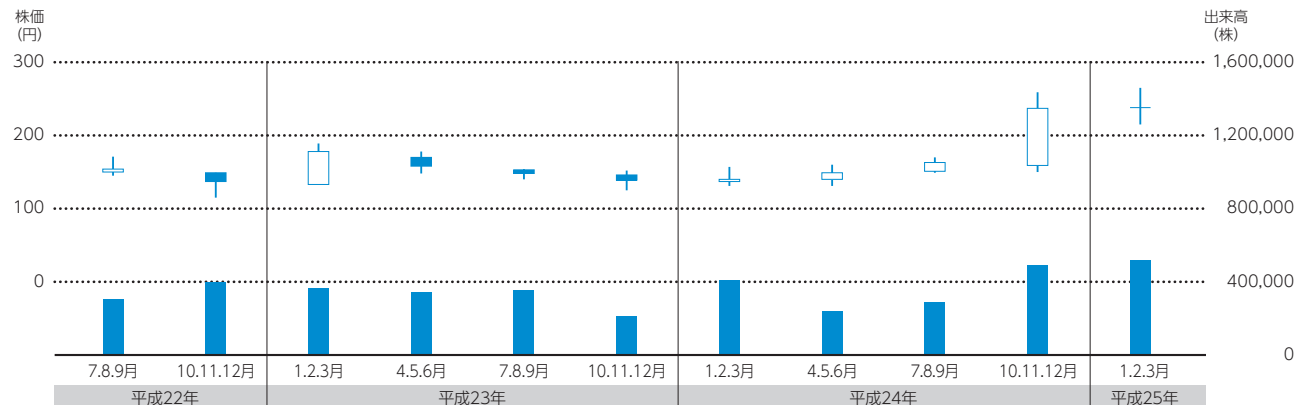
■金融商品取引業者…………… 9名 0.35%
 ■その他の法人…………… 30名 23.39%
 ■外国法人等…………… 4名 0.16%
 ■個人・その他…………… 978名 66.67%
 ■自己株式…………… 1名 4.70%
 ■金融機関…………… 4名 4.73%

地域別株式分布状況



■北海道…………… 17,010株 0.20%
 ■東北…………… 504,783株 5.86%
 ■関東…………… 3,253,669株 37.75%
 ■中部…………… 172,944株 2.01%
 ■近畿…………… 690,841株 8.01%
 ■中国…………… 3,511,739株 40.74%
 ■四国…………… 50,004株 0.58%
 ■九州…………… 405,010株 4.70%
 ■外地…………… 14,000株 0.16%

株価の推移



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 当社ホームページ (http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html)にて掲載。 (ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

表紙写真について



灰方高架橋(極東興和株式会社)

京都第二外環状道路は、京都縦貫自動車道を構成する自動車道の中で、名神高速道路とつながる最も京都市寄りの部分を通過する上下線合わせて4車線の自動車専用道路です。本橋は、長岡京IC～大原野IC間に位置し、4径間連続PRCラーメン箱桁橋×2連の上下部工を施工するもので、上部工については実質14.5ヵ月にて完成させなければならず、工期短縮が課題となっていました。京都西山の景観に配慮した構造が採用され施工難度が高いうえ、民家に近接しており工事用道路の使用には時間制限があるなど、工期短縮には多くの障壁がありました。その中で資機材および人員の集中や、現地製作部材の自社工場製作への切替えや、現場作業の工夫など数多くの課題を克服し、大幅な工期短縮を実現しました。



 **株式会社 ビーアールホールディングス**
Br.Holdings

広島市東区光町二丁目6番31号 TEL 082-261-2860 FAX 082-261-2861
ホームページ <http://www.brhd.co.jp/>
IR情報を当社ホームページに掲載いたしておりますので、こちらからもご覧ください。

**UD
FONT**